

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-550	14-097	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Risk factors for alcohol relapse following orthotopic liver transplantation: a systematic review. 肝移植後の飲酒再開に対する危険因子の検討：システマティックレビュー		
<b>執筆者</b>		
Rustad JK, Stern TA, Prabhakar M, Musselman D.		
<b>掲載誌</b>		
Psychosomatics. 2015 Jan-Feb;56(1):21-35. doi: 10.1016/j.psych.2014.09.006.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
肝移植、飲酒、飲酒再開、予測因子、システマティックレビュー		25619671
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>毎年米国では 5,000-6,000 人が肝移植を受けており、その内 18%はアルコール性肝疾患が原因である。アルコール性肝疾患で肝移植を受けた患者のうち 40%以上が飲酒を再開している。肝移植後の患者において飲酒再開および内服アドヒアランス不良を予測する危険因子を特定し、このような因子を解決し得た介入研究をレビューすることを目的とした。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>PubMed および MEDLINE から、肝移植、アルコール常習、飲酒再開および飲酒再開の予測因子をキーワードに文献をシステマティックレビューした。また、我々は参考文献を参照してマニュアル作業下に文献検索を行った。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>大部分の対象は白人であった。前向き研究によると、移植前の節酒期間が短い程、移植後の初回飲酒および多量飲酒までの期間が短かった。精神疾患並存、Alcohol Relapse Scale の高リスクおよび Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (第 4 版) に基づくアルコール依存は、移植後の飲酒再開の予測因子であった。移植後早期の飲酒再開や飲酒量増加は、その後の脂肪性肝炎、肝生検拒否、移植失敗、および移植後死亡率の増加に関連していた。移植前の管理プログラムと組み合わせて、12 ステップのプログラムへ参加することにより、移植後の飲酒再開を減少させた。移植後の予後を改善する移植前の危険因子を標的とした介入試験はなかった。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>高リスクの個人をスクリーニングし介入することにより移植後の飲酒再開を予防できる可能性がある。予後や QOL 改善を目的とした移植患者における介入試験が必要である。</p>		